

わたしたちの国分寺公園

～遠江国分寺跡の整備基本計画を策定～



コンピュータグラフィックスで復元した遠江国分寺 ①文化財課（埋蔵文化財センター） ☎0538-32-9699 FAX0538-32-9764

昭和27年国の特別史跡に指定

市役所本庁舎北側にある遠江国分寺跡は、今から1300年近く前の奈良時代に、当時あった60カ国余りに建てられた国分寺の跡の一つで、昭和27年に国の特別史跡に指定されました。

全国に先駆けて整備

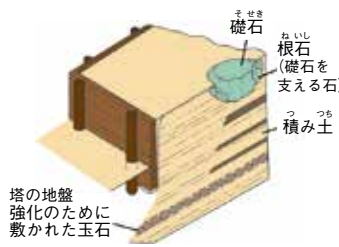
昭和40年代には、国分寺跡としては全国に先駆けて、史跡整備が行われました。その後40年以上が経過し、施設の老朽化が目立つようになりました。

発掘調査

このため、平成17年の合併後の重点プロジェクトの一つとして国分寺跡の再整備を行うことになりました。同年には遠江国分寺跡整備委員会が組織され、翌年に整備基本構想を策定、平成18年～26年度まで史跡指定地内で発掘調査を行った結果、さまざまな発見がありました。

発掘調査の主な成果

お寺の主な建物の基壇（土台部分）は、通常石や瓦などで囲みますが、木の板を用いる「木装基壇」は全国でも確認例が少ない構造でした。基壇が全て木装基壇と判明したのは、全国の古代寺院跡では初めてのことです。



▲木装基壇のイメージ

- ・本尊を置いた金堂の前に木製の柱を持つ灯籠がありました。これも全国で初めての発見です。 ※次ページ参照
- ・お寺の外側には幅1.5メートルの築地塀（土を突き固めて造った塀）が巡っていました。 ※次ページ参照

- ・塔の跡から塑像頭部が見つかり、塔の初層（1階）は色付けされた塑像群（粘土を焼かず

に形作った仏像群）で飾られていたことが分かりました。



▲塑像頭部



▲復元イラスト（菩薩とした場合）

・塔や金堂などは819年に火災に遭い、その後は焼け残った講堂などを使っていたことが分かりました。

整備基本計画を策定

発掘調査の成果に基づいて整備委員会で検討を重ね、平成29年3月に整備基本計画を策定しました。今後、測量や設計を含めて5年程度で再整備を行っていきます。

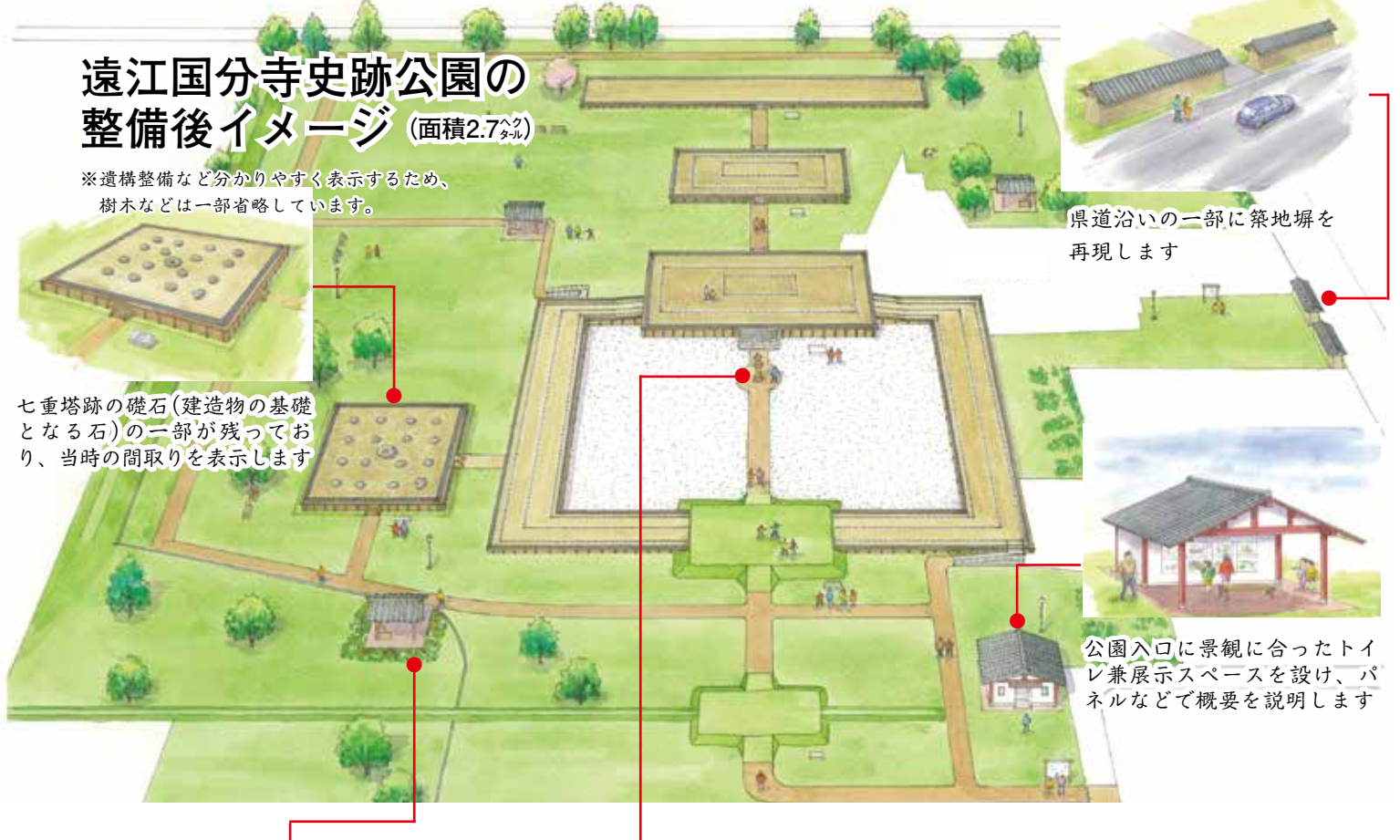


▲わたしたちの国分寺公園（整備基本計画）

※国分寺・・・聖武天皇の命令によって、国が仏教の力で安定するように願って造られた寺院

遠江国分寺史跡公園の整備後イメージ (面積2.7ヘクタール)

※遺構整備など分かりやすく表示するため、樹木などは一部省略しています。



七重塔跡の礎石(建造物の基礎となる石)の一部が残っており、当時の間取りを表示します

県道沿いの一部に築地塀を再現します

公園入口に景観に合ったトイレ兼展示スペースを設け、パネルなどで概要を説明します



あずまやを3カ所設けて、公園に集う方たちの休憩場所として使用できるようにします



金堂の前にあった木製の灯籠を高さ3mで再現します

国分寺公園の再整備
今後整備される遠江国分寺史跡公園は、回廊にはスロープを設置し、バリアフリーに配慮します。そして、広大な遺跡を体感できるように配慮するとともに、暗がりなどがないようにして、市民の皆さんが集う公園に整備します。また、樹木によって遺跡が損壊している所があるため、整理して遺跡を保護します。



▲本編補遺・遺物資料編

「特別史跡 遠江国分寺跡—本編補遺—遺物資料編—」(本文289ページ、写真図版24ページ、一冊3000円)
「特別史跡 遠江国分寺跡—本編—」(本文329ページ、写真図版88ページ、一冊4000円)

発掘調査で分かったさまざまな発見を報告書にまとめました。ぜひご覧ください。

遠江国分寺に思いをはせる

図書館・埋蔵文化財センターで閲覧できます。埋蔵文化財センターでは、販売もしています。

「わたしたちの国分寺公園—(整備基本計画)—」(A4判カラー62ページ)

市政情報コーナー(本庁舎2階)・図書館・埋蔵文化財センターで閲覧できます。概要版も同じ場所で配布しています。また、市ホームページにも掲載しています。

遠江国分寺跡のパンフレット
市政情報コーナー・中央図書館・埋蔵文化財センターで配布しています。



上空から見た遠江国分寺跡